

発現No.

3

受付No.

3

令和 3 年 2 月 15 日
10 時 26 分 受付

会派代表質問発言通告書

議席番号 24 番

氏名 牛尾 昭

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び趣旨

24 番議席の牛尾昭でございます。

私は、会派・未来を代表して、久保田章市浜田市長の施政方針、石本一夫教育長の教育方針に対し質問をいたします。

会派未来は、各々の企業で育んできた知識や経験、今まで培ってきた地域活動を基に、市民の負託に伝えていく責任と信念を持ち、市政に対して施策提言を行ってきました。

いよいよ、市長任期の最後の年となりました。

これまでを振り返って、実現したこと、方針転換されたこと、進行形のこと、様々な事案がおりだと思えます。市長を支える会派未来とすれば、大願成就のために、秋の選挙に立候補されるよう要請したいと思えます。ぜひ、意思表示をお願い致します。

1 水産業の振興について

- ① 市長の公約、水産水揚げ高100億円を目指すという発信は色々な評価がりましたが、大方の皆さんに勇気を与えました。底引き網漁船の廃業や浜田沖の漁場不形成など不連続きですが、周辺を海に囲まれた日本国の地政学的見地と水産食糧の安全保障の観点から、現在の経営体を守ることが、絶対的な使命と考えますが、ご所見を伺います。

② 次に養殖漁業について、瀬戸ヶ島埋立地についてですが、マルハニチロと誠心誠意交渉され、インセンティブも含めて果敢に挑戦されるべきと思いますが、ご所見を伺います。

③ 次に、市内加工業者についてです。

昨年度、歴史に残る、百年産業の水産加工業や鮮魚商に支援金を出されました。一番苦しい時の支援で、皆さん方から感謝の声が寄せられました。今回、東京方面を中心として、二度目の緊急事態宣言が発令され、いまだ継続されています。新年度、是非、再支援されるべきと考えます。ご所見を伺います。

④ 次に、浜田漁港周辺エリアの活性化について

旧しまねお魚センターを改装した山陰浜田港公設市場「はまだお魚市場」の仲買棟が3月21日にオープンします。

本来なら仲買棟と商業棟が同時にグランドオープンすることが一番効果的で望ましいのですが、商業棟はコロナ禍の影響で3密が予想され、時期を判断しオープンするとしています。

いわゆるグランドオープンの、その「時期」とは、どのような基準でどなたが判断、決定をするのか？また、その時には広報・宣伝を一部オープンの時より2倍以上力を入れなければ効果的な集客は出来ないと思いますが、ご所見を伺います。

2 農林業の振興について

- ① 農林業の振興については中山間地域振興特別委員会の提言 3 で示されたように、儲かる農業・林業、維持できる農業・林業が重要で「農業・林業を守ることは地域や集落組織を守る」ことでもあります。

特に林業については、高齢化や後継者の不在、木材需要の減少で造林業者の廃業も続き市内の木材製品事業所（従業員 4 人以上）がH19年の 13 社をピークにH27年からは 6 社になり、近年さらに数を減らしています。

市として担い手の獲得と業界の活性化を後押ししなければ、林業は衰退の一途をたどります。

近年、樹木に囲まれた環境で働くことを希望する人は一定数いると思っています。林業従事者として具体的な仕事内容や職場環境が分からず就業に踏み出せないケースが多いので、後継者確保のためにも中学生以上を対象とし、実際の作業現場を見学したり、体験する機会を設けたツアーを市内の山林で実施してはどうか提案します。ご所見を伺います。

- ② 次に、浜田市の山林資源は豊富であり、約 40%が針葉樹で 60%が広葉樹という状況です。その活用策によっては、今後大きく期待できる産業でもあります。

浜田市が所有している旧市町村から受け継いだ市有林 1,615haのうち人工林は 678haで 658haが針葉樹です。針葉樹のうち 8 齢級以上（1 齢級は 5 年）は 329haで植栽から 40 年以上経過し伐採時期にきています。

循環型林業のモデルケースとして、その市有林で十分な予算付けをして、計画的に伐採・植林し、トータルで収支を黒字化できる事を実証し民間の人工林の伐採計画モデルにつながると考えますが、ご所見を伺います。

- ③ 次に、浜田市は広葉樹も森林政策の遅れから手つかずになっており、種類や樹木数はまさに宝の山です。つまり広葉樹の強い産地は近隣にはないので、多種多様な広葉樹の木目の美しさを生かした、ブランド品づくり(ビジネスチャンス)に着手することを強く働きかけるべきだと思うが、ご所見を伺います。

3 商工業の振興について

- ① 近年の市内中小企業の疲弊した姿は、悲惨な状況です。特に昨年からのコロナ禍では駅前を中心として、多くの飲食店や物販店などが廃業・閉店しています。是非、支援について所見を伺います。

- ② 次に、好評のプレミアム付き「浜田飲食・宿泊応援チケット」の発行は追加発行されるほど、消費喚起に繋がりました。市民に喜ばれた政策は、アフターコロナにおいても、年1回程度は引き続きプレミアム付応援チケットの発行を続けるべきだと思うが、所見を伺います。

4 観光・交流の推進について

- ① 県の「美肌観光の推進」で本市の美又温泉と旭温泉が「美肌観光モデルプランづくり」に取り組むエリアに選定され、その取組として美肌効果が期待できる食材を使った料理開発をして実際提供されていますが、定番として定着していけるのか、また、美又温泉に代表されるような天然の保湿成分ともいわれるメタケイ酸を多く含むトトロのお湯がアトピー性皮膚炎にも医学的効果があるとされている事から、それを強く全国発信して絞り込んだ誘客もするべきだと思うが、所見を伺います。

5 健康でいきいきと暮らせるまちについて

① 高齢者福祉の充実について

団塊の世代が高齢化する 2025 年問題が目前に迫っており、現在でも 4 人に 1 人が高齢者であります。

国は高齢者が住み慣れた地域で、自立した生活を送ることが出来る社会を目指すとしています。しかし当事者の気持ちは、心身の状況が悪くなくても、別所帯の遠方の家族や親族、地域の方に迷惑をかけたくない思いを持ちながら、また自立に不安を持っています。現実には独居高齢者の孤独死が意外に多く、無関心から数日後に発見される事が多く、実態を裏付けるものであるといえます。だからこそ、自助・公助・共助で市民が繋がる仕組みと、助け合う実践の方策として、まちサロンなど寄合と見守り活動の推進できる拠点(センター)や施設(空き家等)の活用が求められていると思います。

市長の考えを伺います。

② 次に、自立不能から、特別養護老人ホームやグループホームなどへの施設の入所を希望しても待機者が多く入所できない事例や、病後支援を求めたくても介護保険医療施設の不足から、やむを得ず県外施設に入院せざるを得ない状況があります。そのことによって、諸費用が膨らみ援助なしでは対応できない現状があります。第 8 期介護保険事業計画から導く、在宅での自立した生活への対策と介護サービス事業の対応策と財政支援策を伺います。

③ 次に、敬老入浴券贈呈事業についてです。賛否あるものの、浜田市が高齢者に元気で暮らしていただいた感謝の証としての事業は理解する所です。その事業ですが、昨年コロナ禍で休業の要請や協力依頼が 4 月から 2 ヶ月間以上あり、その後も自粛要請で入浴制限があったりして、温泉施設の利用促進も回復できていない状況です。対象者十数人に伺った所、ほとんど

の人が感染リスクを恐れ、入浴券を使っていない人が多い状態でした。

そこで、入浴券の使用期限が3月末までなので、今年度の特例として1年間有効期限を延長できないでしょうか？検討いただきたい。

また、令和3年度から利用促進を目的に対象者を拡大するとしていますが、以前から入浴券と食事券のセットや食事券だけなど選択肢があればと要望されています。その取組はしないのか伺います。

④ 障がい者福祉と地域福祉の充実について

当市には、周辺市町村と比べても、障がい者の関連施設が多く、精神科や神経科のある社会医療法人があるなど、福祉のまちと言っても過言ではありません。中国5県から治療に訪れている方も多く、定住に繋がっているときいています。浜田市における施設や医療体制・高齢者施設の支援策について伺います。

⑤ 次に、障害者総合支援法では、「全ての国民が、障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重されるものである」とした理念のもと福祉計画に着手しています。

そこで、老若男女の障がい者と健常者の様々な障がいを取り除いて、まちづくりに参画できる環境を整備し、地域でともに集い、そして活動をする組織づくりが必要であると思いますが、ご所見を伺います。

6 医療体制の充実と健康づくりについて

① 市民の命を守るためのコロナ対策について問う。世界では、1月16日現在、200万人が亡くなっており、日本でも4700人近くが亡くなり、日によっては100人以上が亡くなるというまさに、非常事態である。

ワクチン接種についても政府方針が揺れており、市長におかれても悩ま

しいと思っておられるのではないか。

私はワクチン接種については練馬区モデル、PCR検査については、プール方式が優れていると思うが、見解を伺います。

7 学校教育の充実について

- ① 幼稚園統合について、約10年前の原井幼稚園と石見幼稚園の場合には、原井幼稚園のPや地域のOBを巻き込んで約9000名の反対署名を集めた。当時の市長は、統合幼稚園建設を約束された。久保田市長になって、一旦予算が計上されたが優先順位で先送りされた。

今回は、3園を統合して長浜幼稚園を残し、将来的に新園建設をするとの方針が示された。

振り返って見ると、この10年、幼稚園政策は二転三転し、其のたびに市民の期待を裏切って来ました。先般、3園のPと意見交換会を行いました。それぞれ、公立は、是非残して欲しい。立地を考えて、長浜では通園出来ない。かねてからの要望を、少しでもいいから実現して欲しいなどと涙ながらの訴えでした。

今回、会派未来として提案します。過去のことは問いません。早々に、魅力ある統合幼稚園の建設計画を示すべきと思うが、ご所見を伺います。

- ② 次に、浜田市立第四中学校統合問題についてお伺いします。10年以上前から、今日を見通し地域挙げて、幼・小・中一貫校や小・中一体型校舎建設を要望して参りました。先般の要望活動も地元の願意は、市長・教育長に届きませんでした。地元の声には、弥栄中学校と一緒になればとか、新しい校舎建設は望まないから、修理して出来るだけ長く使えないだろうかという意見があります。

再度、市長に伺います。この美川地区の要望について、地区住民が納得で

きる様な答弁をケーブルテレビを通じて、語られるように要請します。

- ③ 次に GIGA スクール構想の実現について伺います。この事業は教職員だけでなく IT スキルを持った人材が必要です。

文科省は民間の人材を ICT 支援員として教育委員会へ繋ぐとしているが、どのような支援の体制になるのか、伺います。

8 歴史・文化の伝承と創造について

- ① 歴史文化展示施設の整備に関し基本計画の策定がなされています。歴史文化の伝承については、浜田開府 400 年を契機に市民団体の活動が活発で、意識も高まっており、現地探訪や講演会などの参加が増えている。施設の利活用も含め今後の方向性を伺います。

9 環境保全と快適な住環境づくりの推進について

- ① 水資源についてお伺いします。今冬も金城町を中心に断水が発生しました。水は、命のインフラと言われています。原因を究明し、市民の安全・安心のために、上下水道部の奮闘を期待します。さて、国内、国外を見ると、水を征するものは、世界を征すると言われており、多国籍企業が民営化の名のもと、運営権や水脈周辺地域の買収を行なっています。グローバル食品メーカー最大手ネスレ社の調査によると、2025年までに地球の三分の一の人々が新鮮な水にアクセス出来なくなり、2050年までには、地球は壊滅的な水不足に陥るとのこと。2018年経産省のデータによると、2015年に84兆円だった世界の水ビジネス市場は、2020年には100兆円を超えると予測されています。

世界の水道民営化に関する調査機関PSIRUのデータによると、2000年から2015年の間に世界37ヶ国253都市が、一度民営化した水道事業を、再び公営に戻しています。

主な理由は、①料金高騰、②財政の透明性欠如、③公営が民間企業を監督する難しさ、④劣悪な運営、⑤過度な人員削減によるサービス低下などである。以上の理由から、市民の『命のインフラ』を守る観点から、水道事業民営化には絶対反対である。市長の見解を伺います。

- ② 次に、12月議会の同僚議員の発言に対して、水源地域保全条例に取組むとの発言があったが、施政方針に触れられてない。

現在、美川水系・水源に関わる風力発電が計画されているが、早急に水源地域保全のために条例制定し、これを阻止すべきと思うが所見を伺います。

- ③ 次に、美川水源に土地を提供したものの一人として、良質で豊富な水量を含む美川水源地は、市民の宝である。まだ田んぼなどが混在しているが、将来的には水源地公園として整備するべきと思うが所見を伺います。

10 公共交通の充実について

- ① 各委員会で様々な移動手段の提案を行っている。住民の利便性はドアツードアが良い。費用対効果と地域性も加味し移動手段を組合せるのが最良と考えます。その研究を進めるとあるが、実証実験など前に進むことが必要と思うが所見を伺います。

11 定住環境づくりの推進について

- ① 若者の定住促進には、働く場を確保するための産業振興が必要です。コロナ禍において、新規の企業支援や既存の事業所の保護支援も重要な施策であり、積極的なサポートを求めるところです。加えて地元への就職から定住し、自然の摂理によって出会い・結婚をする流れを創出できる出会いの場づくりが必要であると思っています。あわせて同世代はもとより、世代を超えた縦

横がつながるお世話人の人材の発掘と拡大によつての縁結び活動は、成婚に有効であると思いますが、今後の支援策について、ご所見を伺います。

12 大学等高等教育機関との連携について

① 島根県立大学が4月から「2学部2学科」に改編されます。

県大の学長は地域貢献を掲げ、県内各市町村の地域おこしに教授や学生が行動している。近年、おひざ元の浜田市で開学当時のような市民との交流や地域解決の提案等が見受けられない。学部改編を機に積極的に取り組むべきと考えるが、ご所見を伺います。

② 次に、県大学長の発言、2月3日付け新聞報道「島根の高校生を育てよう」によると、意欲ある島根の高校生の入学を増やし、定住に結びつける為に、21年度から浜田キャンパスは国際関係学部と地域政策学部にも再編し、その為の入試改革にも取り組むというものです。このことは、地元高校生の定住をはかるためにも有効な改革だと思っています。

かねてより学部増設等に前向きである市長のご所見を伺います。

③ 次に、入試の県内枠活用に、連携校推薦の導入が示されています。浜田市内の県立高校3校や近隣の高校も含め、地元枠で県立大学への進学を応援するために、高校魅力化担当を増員すべきではないか。その事により、地域活動支援や情報提供、小中のキャリア教育にも連携出来ると考えます。ご所見を伺います。

13 中山間地域対策について

① 令和3年度から、まちづくり振興基金の中に中山間地域振興枠として5年で10億円が確保される。中山間の課題解決に取り組むとあるが、実施

事業の決定、予算配分等はどうのようなプロセスになるのか、伺います。

14 行財政改革の取組について

- ① 現行の計画が最終年度となる。今後、社会や制度が大きく変わっていくことが想定されるが、新たな計画策定に向けては、どのような方向性なのか、伺います。

15 有福温泉の共管組合について

- ① 江津市と浜田市で共同管理をしているが、管理運営は厳しく、今日まで継続するために基金からの繰替運用、金融機関から一時借入を行うなどして対応しています。昨年、新型コロナウイルスの影響で、更に入湯者が減り収支不足が見込まれることから、令和 2 年度は緊急避難的処置として両市で負担をしたところでした。今後の方針として、共管組合の在り方や振興策を検討委員会（両市の地元代表も参加）で 4 回にわたり協議を行い、管理者の江津市長に提言書を提出するまでになっています。

その状況を組合構成市である浜田市は、どのように思われているのか、所見を伺います。

【教育方針】

1 学校教育について

- ① 令和 4 年度からの次期、浜田市教育振興計画の目指すものは何か、伺います。
- ② 令和 3 年度から中学校の新学習指導要領が全面実施となるが、以前より更なる学校と地域との連携が必要になる。公民館は 4 月からまちづくりセンターになり、機構改革も実施される。教育委員会に地域学校連携係が新設されるが、マンパワーが十分か、伺います。

2 芸術文化の振興について

- ① 昨年12月、浜田市に特定地域づくり協同組合が設立されました。音大卒の若者が地域に芸術文化を広める活動をする事になっています。教育委員会として小中学校へのスクールコンサートで演奏や交流をされないのか、伺います。

3 文化財の調査及び保存・活用について

- ① 浜田開府400年事業は無事終了したが、次世代を担う子供たちへの郷育はもとより、多くの市民が浜田の歴史に興味関心を持たれました。まさに温故知新だと思う。これからも、地域の歴史に対する市民活動が継続されるよう支援が必要と思うが、所見を伺います。。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大で中止になった北前船フォーラムだが、久保田市長も大いに力を入れておられた。是非とも浜田で開催すべきではないか、市長のご所見を伺います。